

SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクト
第 10 回展示
2022 年 9 月 25 日ー 2023 年 3 月 25 日（予定）

SOU10

2022
9/25
—
2023
3/25

Strawberry Fields

北村 こう・カワイ ハルナ・安藤 智・大久保 つぐみ

SOU 第 10 回目となる今回の展示は、北村こう・カワイハルナ・安藤智・大久保つぐみの 4 作品を紹介します。

タイトル「Strawberry Fields」（ストロベリーフィールズ）は、1966 年のザ・ビートルズの楽曲「Strawberry Fields Forever」に基づいています。

この歌はひとりひとりが持つ固有の精神的な場所をテーマとして歌われています。

これらの 4 作品の中には、それぞれ全く種類の違う空間世界がつくられています。作り手は、とても個人的（パーソナル）な記憶や想いや考えの中で表現して、公共（パブリック）の場に投げかけます。その時、作品の中に生まれる時間や空間は完結することなく、私たちに問いかけられ、考え・感じさせてくれます。そうして作品世界に踏み込んだ私の個人的（パーソナル）な想いの中に還元されるのです。

作品を通して、誰もが持つ自分だけのストロベリーフィールズをみつけていただければと思います。

ひと・まち・えき 大型プリントのアート作品が出会いをつなぐ。

SOU(ソウ)ー JR 総持寺駅アートプロジェクトは、2018 年 3 月 JR 総持寺駅開業とともに、生活の中でアートに出会う環境をつくり、アートを知るきっかけの場になればという思いから立ち上げられました。

高さ 2.6m の自由通路壁面に、有名・無名、地域・年齢に関わらず様々な作家の作品を大型プリントにして展示し、絵画や写真など現代に語りかける多様な作品を紹介します。展示は約半年ごとに入れ替えを行い、継続するアートプロジェクトを目指します。 ※ 会期は諸事情により変更される場合があります。詳しくは SOU のホームページ、Instagram をご覧ください。

様々な創造がここに集まり、人とアートがめぐりあう。それが JR 総持寺駅 SOU。

主催 | 茨木市

協力 | art space co-jin、artgallery opaltimes、NEWLY

企画 | One Art Project

北村 こう Kou Kitamura

【略歴】

1962 年 石川県生まれ 京都府在住
1986 年 大谷大学文学部哲学科 卒業
2020 年 京都芸術大学通信教育部芸術学部美術科洋画コース 卒業
2022 年 「HUMANiMAL- 北村こう個展」／ art space co-jin ／京都

1999 年 『癒されたい人のための「詩小説」』出版（近代文芸社）

【作品情報】



「HUMANiMAL- 熊の家族」

油彩、キャンバス

513mm x 725mm

2020 年制作

【紹介文】

北村こうは、絵の他にも日常的に多くの詩や物語を書いています。それらはどれも自分の心や夢や希望に忠実にそして丁寧に綴られます。同じく絵の世界では「HUMANiMAL」（ヒューマン「人間」とアニマル「動物」をミックスした造語）という擬人化した動物の登場者を設定し、生き物の根源的な愛について考えを巡らせます。画面のどこを見ても初めて画面に触れるような無垢な筆跡は、作者にとって絵を描くことがかけがえのない時間であることを想像させてくれます。

「『見る』と『感じる』は違う。“モノ”は”カメラで記録できるが、“何か”を判るのは感性だ。感性は十人十色で、皆がモノをめいめいに捉えている。作者は見た目で人と獣を区分せず（できず）、そこに共通して流れるものを感じる。私の HUMANiMAL 達が“心の大使役”として“愛”を届けてくれればと思います。」

北村こう

カワイ ハルナ Haruna Kawai

【略歴】

東京在住

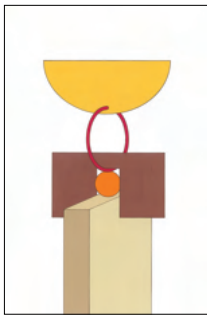
2016 年からアーティストとして活動

幾何形態で構成された独自の造形物を描く

物体と物体の関係性に興味があり、絵だからこそ成立する立体物を描いている

展示を中心に活動。書籍、雑誌などの装幀も手がける

【作品情報】



「OBJECT」

アセテートフィルム、アクリルガッシュ、木製パネル

900mm × 600mm

2021 年制作

【紹介文】

カワイハルナのグラフィカルな作品は透明なフィルムに球体やブロックなどの立体物が手描きされています。軽やかな色で描かれた、奥行きや重力を排した造形物は不思議なバランスで、静かに佇みます。誰もが小さい頃、積み木や転がっている石を積んで、出来上がっていく形や世界を気ままに創造しました。それは家になったり、乗り物になったり、なにかとは説明できないものになったり。それぞれの形が絶妙な関係で成り立つ作品は、その形の重さや素材を想像している間に親近感や愛おしさを感じさせ、いつの間にか私たちを別世界へと誘います。

「崩れそうな瞬間的なシーンを捉えた立体物、絵の中では永遠に停止している緊張感を楽しんで下さい。

用途や目的ではなくその物の存在を容認することから始めてみて下さい。」

カワイハルナ

安藤 智 Tomo Ando

【略歴】

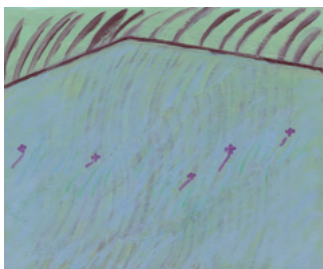
画家。大阪府生まれ、東京都在住

京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科混合表現コース卒業後、同校附属芸術文化研究所研究生修了

油彩、ドローイングを中心とした制作。個展や、書籍の装画などイラストレーションとして作品を発表

作品集は『DOG DOG DOG DOG』、『安藤智 作品集』など

【作品情報】



「屋根と草むら」

油彩、キャンバス

380mm x 455mm

2021 年制作

【紹介文】

安藤智の作品は、言葉にはできないもの、したくないものを見つめ続け、優しい色合いで日々の感触をつかみとるように描かれています。一方でとても大胆な筆づかいで表現される形象や、大きく欠損したかのような色面は、絵画のセオリーを飛び越え、見るものに少しの驚きや違和感を与えます。それは既存の価値観ではなく、私たちが自分自身で言葉にならないものを感じるための仕掛けであり、作家が繰り返し鍛錬してきた高度なテクニックによるものなのです。

「自宅の近くに草むらと家がひとつになってしまいそうな場所がある。私はその裏側からしか見ることが無いけれど、通るたびに気になるようになったので描いてみた。こんなふうに描きはじめることがとても増えた。描いて、見て、置きっぱなしにしても目に入らなくなると絵が完成している。」

安藤智

大久保 つぐみ Tsugumi Ookubo

【略歴】

日本大学藝術学部美術学科卒業

パレットクラブスクール卒業

第 197 回、206 回、220 回イラストレーション ザ・チョイス入選

玄光社イラストレーション no.232 特集掲載

作品制作は主にマーカーを使用

【作品情報】



「あなたのための天国」

マーカー、紙

210mm × 297mm

2017 年制作

【紹介文】

大久保つぐみの作品は風景や植物などをマーカーで描きます。描かれた色は紙の上で隣の色とにじみ、重なり合います。重なる色は、物と物、物と空間の輪郭を曖昧にします。感じる透明感と光と陰、作者によって変換した色の世界は、にじんだ境界線から私たちの心に自然と溶けこみ、ある風景を感じさせてくれます。作者が描いた身近な風景、そこは私たちが思い描いたことのある楽園か、いつかどこかで見た懐かしい景色かもしれません。

「これは友人と散歩していてふと目に留まった風景です。

廃墟となった家の隣に空き地があり、たくさんの植物が生えていました。

人の目につかないところで朽ちていく家と育ち続ける植物が入り混じったこの場所は、友人と私だけが見つけた天国のようでした。」

大久保つぐみ